

夢ひろば

Vol.45

夢探しに行こう の世界



 Kogakuin University High School of Alumni Association

本校中学生が OBの会社を訪問！



2020年度、中学1年生の探究教室では「八王子プロジェクト」と題し、八王子市ふるさと納税の返礼品に着目して「八王子市を支える作り手の想い」を形にするPR動画を制作しました。コロナ禍の中で8つの企業・作業場を訪問させていただき、その一社として本校の卒業生・内野真治さんが経営する(株)ナラハラオートテクニカル様へ訪問いたしました。

ご多忙にも関わらず内野さんと社員の皆さんに2時間ほどお時間をいただき、中小企業の割合や働くことの面白さや大変さ、そして(株)ナラハラオートテクニカル様の事業内容などについて説明を受けました。そのあとは工場の中を案内され、機材の紹介や実際にどのような商品を作っているかをご説明いただきました。今回の訪問では内野さんから同社独自の取り組みについてだけでなく、大学3年生が就職活動のワークショップで聞くような一般企業の基本的知識について中学1年生にもわかるような説明とともに、内野さん自身が感じた中学・高校時代にやっておけばよかったこと、やっておいてよかったことについてもお話をいただきました。生徒たちはただ一企業の取り組みについて学ぶのではなく、卒業生から「生き方」について教えてもらうことができたのだと思います。

教員にとっても、内野さんのような心優しく行動力のある生徒を今後も育てていきたいと、改めて考えた一日でした。内野さんのように本校を卒業したあとも活躍し、また母校と関わりたいと思えるような教育を今後も展開できるように努めて参ります。また、今回いただいた機会を活かし、生徒たちには単純に一つの商品に着目するのではなく、「作り手の想い」を感じられる生徒になってもらいたいと考えております。それ以外にも今後の活動を通して、あらゆる立場に立って考えて行動できる素敵な大人になってほしいと思っています。こうした想いを形にできるように教員一同、様々な取り組みをこれからも行ってまいります。

改めてではありますが(株)ナラハラオートテクニカル様、この度は誠にありがとうございました。
(引率教諭：福島和孝氏 柳田健吾氏)



株式会社ナラハラオートテクニカル

代表取締役 内野 真治氏 (1987年 機械科卒)

所在地 〒193-0803 東京都八王子市檜原町 594 番地

TEL:042-625-6711 (代) FAX:042-625-6864

<https://www.narahara-at.jp/>



ごあいさつ



工学院大学校友会附属高等学校同窓会
会長 岸 和浩 (1979年 普通科卒)



工学院大学附属中学校・高等学校
校長 中野 由章

平素は同窓会活動にご支援・ご協力をいただき、誠にありがとうございます。若林勝司会長の後任として本年度から会長を務めさせていただきます。このような大役は初めての経験で至らない点多々あるかと存じますが、どうぞよろしくお願いいたします。

私は八王子で生まれ育ち、附属高校を卒業した後に工学院大学・生産機械工学科を卒業しました。附属高校副校長を務める傍ら本会副会長となった島田浩行さんとは同期生、そして大学の同じ研究室出身です。高校在学中、私が生徒会・副会長だった時に島田さんが自動車部・会計役として生徒会室で出会って以来40年以上、二人は本会活動に関わってきました。

私たちの卒業後、母校が男子校から共学となり中学校を新設した歴史とともに、本会は幅広い年齢層のOB・OGが活動する場となりました。その中で長年考えていた課題は、会員の世代間ギャップに対応し、本会活動を活性化していく事です。毎年、大先輩会員と新会員の年齢差は広がっていきます。私たちの世代は半数以上の卒業生が工学院大学へ進学しました。つまり、高校同窓会員でありながら大学の学科同窓会員でもあります。校友会組織の中で所属同窓会の選択に悩んだ本会会員は多かったことと思います。

一方、近年の附属高校では7割近くの卒業生が他大学へ進学しています。隣接するキャンパスが進学先ならば本会活動への参加も容易ですが、他大学で学業やサークル活動、アルバイトと多忙に過ごすOB・OGは本会活動から疎遠になりがちです。また、社会人になると生活環境が変わったり配属先が遠方で実家を離れたりで時間的余裕がなくなる方もおられます。

そこでコミュニケーション手段のリニューアルを進め、本会活動から離れていても楽しく理解や参加をいただける努力を続けています。同窓会報をビジュアルにデザイン制作して本会ホームページにも反映させ、八王子懇親会の企画内容もリニューアル。その名称は若い世代に親しみやすい「ホームカミング・パーティー」へと変えました。このイベントをクラス会やクラブOB・OG会の場としてもご活用いただければ幸いです。

また、卒業後に本会員が集える機会を増やしています。2010年に母校からご配慮をいただき、文化祭「夢工祭」に「おもいでCafé」を初めて出店しました。“来店者とともに運営スタッフのOB・OGも楽しむ”をコンセプトに、一昨年まで毎年出店してきました。

残念ながら長引くコロナウイルス禍により、昨年度の本会活動は著しく制約を受け、行事・イベントは中止せざるをえませんでした。また、会員の中には仕事で損失を受けた方々も多いことと拝察いたします。ウイルスに感染された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

この禍も経済も先行き不透明な状況ですが、引き続き本会運営に努力し情報発信に努めてまいりますので、ご指導とご協力をお願い申し上げます。

2021年4月に校長を拝命した、中野由章です。私は、芝浦工業大学大学院を修了後、日本IBM大和研究所、三重県立高校、千里金蘭大学、大阪電気通信大学、神戸市立高校で奉職し、この度、本校に着任いたしました。輝かしい歴史と実績のあるこの素晴らしい学校を引き継ぎ、発展させていく責任の重大さに、身の引き締まる思いです。

本校は、国内外の高等教育機関や国際機関、国の機関、研究機関、地元八王子市、企業・経済団体等の関係機関との連携・協働により、SDGsの実現やSociety 5.0の到来に伴う諸課題に対応するために、学際的・複合的な学問分野や新たな学問領域に即した最先端の特色・魅力ある探究的な学びに取り組んできました。また、ICT教育には特に力を入れてきました。その成果の一端として、2020年度のコロナ禍においても、生徒のみなさんの学びを止めることなく、円滑にリモート授業を実施できました。これらの取り組みは、ICT教育に力を入れている学校で第1位、グローバル教育や理数教育でもベスト10にランキングされるなど、外部からも高い評価をいただいています。※

今年度から、他校では決してできないような特徴のある学びであるK-STEAMを推進します。このK-STEAMとは「グローバル・リベラルアーツと数理情報工学を融合した、工学院らしい先進的教育」の事です。そのために、Make RoomやFabスペースといった、創造的な学びの環境をより一層充実させます。また、本校最大の強みは、工学院大学の附属学校として、大学の八王子キャンパスに隣接しているという点です。大学の附属学校は珍しくありませんが、大学に隣接しているところはそう多くありません。このメリットを最大限に活かし、大学の施設・設備の利用にとどまらず、総合的・包括的に連携してさまざまな教育活動を展開してまいります。中学・高校時代に最先端の数理情報工学に触れることは、将来の進路が理工系であるか否かに関わらず、生徒のみなさんの能力を大きく育てることになると確信しています。

本校の校訓は、「挑戦・創造・貢献」です。すなわち、自ら考えて失敗を恐れず積極的に挑戦し、仲間と連携して新しい価値を創造し、人間性豊かな社会の構築へ主体的に貢献することをめざしています。これは、生徒のみなさんに限らず、我々教職員も同様です。常に、教育内容の改善に努め、生徒のみなさんの成長をしっかりサポートすることをお約束します。そのためにも、生徒、保護者、卒業生、地域のみなさまからさまざまなご意見を賜りたいと考えています。今後とも、本校の発展に格別のご支援をよろしくお願い申し上げます。

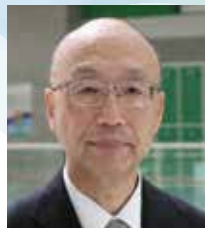
※プレジデントFamily 2021 春号「新時代の学校選び中高一貫校 ランキング」
<https://presidentstore.jp/category/MAGAZINE03/092104.html>



学校だより

～高等学校・中学校の近況～

高等学校だより



コロナ禍の中で 高等学校の取り組み

副校長 島田 浩行

同窓会の皆様いつも大変にお世話になっております。毎年行われる同窓会懇親会がコロナ禍で開催できませんでしたから、近況などをお伺いすることもできず残念でした。今年はなんとか工夫して同窓生の皆様との交流ができればと思います。

さてこのような中で、学校は一時通常登校ができないことになり、オンラインによる授業となりました。本校のオンライン授業は、従来の予備校などが行っている、録画されたものを見るのではなく、Zoomを使った双方向型の授業です。教師と生徒のコミュニケーションは当然ですが、生徒同士のグループディスカッションも当然できます。ですから本校が今まで実践してきた双方向型の授業がオンラインでも実現できたのです。我々教員は素早くこのための準備をして、授業の遅滞がなく1年間を終えることができました。これは生徒たちのICTに関するスキルが高くなったことと、家庭環境が整っていたということでもあります。さらに今までになかった取り組みができるようになりました。当然海外研修はできません。しかし本校は、世界50カ国180校以上のメンバー校を有する国際規模の私立学校連盟で国際会議に生徒たちを派遣している Round Square の会員校で、今年は国際会議に生徒の派遣はできませんでしたが、これまで海外の会員校とのオンライン授業は何回も実施しています（詳細は本校のホームページに掲載）。Zoomを使った“生の授業”で、異文化体験が簡

単に実現できたところも大きな成果でもありました。また、グローバルプロジェクト（高校2年の宿泊研修）もカンボジア等に行く予定でしたがオンラインによる研修に切り替え実施することができました。

それ以外の学校行事ですが、体育祭は本校のグラウンドで競技の工夫をして開催することができました。また、夢工祭も縮小する中でコロナ対策を十分に行い、来場者も限定し実施することができました。クラブ活動は残念ながらほとんどのクラブが大会中止となりました。その中でも硬式野球部は無観客で夏の西東京大会が実施され、本校はベスト16まで進出し、創価高校戦は惜しくも1点差で敗れましたが十分に実力を発揮できた大会となりました。同窓会の皆様もテレビで応援をしていただいたかと思います。本当にありがとうございました。今年は十分な対応をとりながら、多くのクラブが大会に参加できると思いますので、またご報告させていただきます。

今後とも母校の発展にご理解とご協力をいただくとともに、色々と盛り上げていただければ幸いです。どうぞよろしくお願いいたします。





それでは！楽しい中学生ライブを！8月4日でしたー！入学おめでとう！

中学校だより



学びを止めず、さらに進化した 2020年度の工学院を報告します

中学校教頭 奥津 栄介

日頃より、卒業生の皆様には、たくさんのご支援をいただき、誠にありがとうございます。今春は中高一貫 26 期生として、ちょうど定員の 105 名の中学校新入生を迎えました。例年通りの教育活動や募集活動がままならない状況の中で、本校のこれまでの取り組みを生かし、オンラインを駆使した学びを実践し、多くの皆様に好評価をいただきました。おかげさまで一般入試も帰国生入試も例年以上の出願者数・受験者数を集めることができました。

ここで、2020 年度に中学校・高等学校で実践した新型コロナウイルス感染症対策のためのオンライン授業等の対応の概要を報告いたします。

2020 年 2 月末、中高一貫 7 期生から途切れることなく実施してきた合唱コンクールを中止、3 月は学校を休校として期末試験も中止となりました。高校の卒業式は何とか実施できたものの、状況が悪化してきた 3 月末の中学校卒業証書授与式は教室に分散しての生徒と担任だけの実施とせざるを得ませんでした。このとき、生徒たちの姿を何とか保護者の皆様に伝えたいと、学年の先生方が熱い想いで Zoom での中継を実施しました。今は当たり前になりましたが、当時は Zoom を活用して学校から家庭に生配信することは画期的なことだったと思います。

このことをきっかけに、Zoom をオンライン授業に活用しようと動きました。まず ICT に長けている教職員で試行・検証し、4 月初めには全教員で研修を行い、教科でも議論やシミュレーションを繰り返して、数日のうちにほとんどの教員が Zoom の設定や画面共有の方法などを習得しました。

最初の緊急事態宣言発出中の 4 月中旬にはまず 9:00 と 15:00 のオンライン HR を実施して、教員と生徒、生徒同士のコミュニケーションを開始しました。新入生は入学式も実施できませんでしたので、ここで初めて顔を合わせるようになりましたが、他校と比較すればかなり早い時期でのオンライン対面が実現できました。そして、宣言が延長となってしまう 5 月から本格的にオンライン授業を実施することを決断し、5 月 11 日からは 5 教科を中心とした時間割を設定して、4 時間ずつのオンライン授業を実施しました。

5 月末に宣言が解除となり、都立高校でも分散・時短登校が始まりました。本校でも入学セレモニーや登校日を受けつつも、十分な授業時間が確保できない状況でしたので、6 月 8 日から 2 週間は技能教科を含めたすべての科目で 6 時間の授業をオンラインで実施しました。生徒たちの学びを止めないということを真に実行できた数少ない学校の 1 つであると、手前味噌ながら本校の生徒、教職員、そして協力して下さった保護者の皆様に誇りに思います。

ご存じのように、6 年前に「ハイブリッド」を冠したコースを立ち上げ、そのときから生徒 1 人 1 台ずつの端末（中学生は iPad、高校生はノート PC ※）を持たせて授業で活用してきました。2020 年度はちょうどその 1 期生が高校 3 年生になっていましたので、在籍する全生徒が端末と Microsoft Office365 のアカウントを持っていたことも幸いでした。Zoom でのオンライン授業は初めての経験でしたが、元々、OneDrive や Forms、教育用 SNS の Edmodo などには教員も生徒も慣れていましたので、かなりスムーズに実施できました。しかも、登校していない新入生でもオンライン授業が成立したことで本校教員の指導力を改めて感じました。

約 2 カ月間のオンライン授業を終え、6 月 22 日からは通常通りの登校を開始しました。全生徒に携帯用の消毒液ボトルを配布し、毎日の生徒の健康チェックや教室の消毒を実施し、幸いなことに 1 人の感染者も出すことがなく 2020 年度の学びを終えることができました。

まだまだ先の見えない状況は続きそうですが、この危機を乗り越えながら、さらに進化した工学院大学附属中学校・高等学校の今後に期待していただければと思います。卒業生の皆様、ぜひ、引き続き応援していただければ幸いです。どうぞよろしくお願い致します。

※ 2021 年度より中学生もノート PC に移行





高校自動車部 顧問
島田 浩行
(1979年 機械科卒)

ソーラーカーレース へのチャレンジ

脱炭素社会に向けて、「ガソリン車を販売しない」というニュースがありました。最近電気自動車や電気バイクの話題も増えています。今まで自動車部はガソリン1リットルで何キロ走れるか？という燃費競技の車の製作とホンダエコマイレージチャレンジ全国大会への参加を目標に活動を行ってきました。しかし時代の流れと、工学院大学のソーラーカーチームの活躍の影響もあり、何とか高校生もソーラーカーにチャレンジできないか？と思っていたところ、2019年に大学のソーラーカー2号機の車体を譲り受け、必要な部品をつけることでソーラーカーレース参加のメドが立ち、部員たちとも相談してソーラーカーレースの参加を決意いたしました。

車体の製作だけでも大変な苦労とコストがかかりますが、それを譲っていただいたことで、必要な部品として先ず走行するのに必要な部品を整理しました。専用ホイール、タイヤ、モーター、制御装置、ブレーキ（4輪）、配線部品等でした。大学のソーラーカーチーム監督の先生のアドバイスで業者を教えてください、専用の部品が見つかりましたが、とても部費で購入できる価格ではありませんでした。そこで我々の活動を理解していただき、応援していただけるOB・OGや保護者の皆様の協力で、走行できる状態まで作り上げることが

できました。応援していただいた皆様に感謝申し上げます。

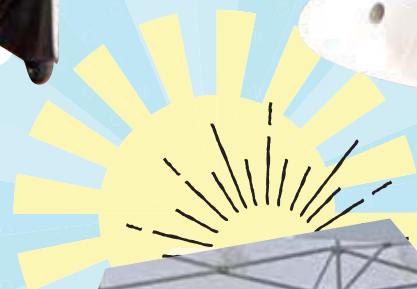
今まで関係各方面から170万円ほどの援助をいただき、タイヤ・ホイール・バッテリー・ブレーキ部品・制御装置などを購入し走れる状態になりました。さらにレースを円滑に行うため、スペアホイール4本・タイヤ・予備制御装置・予備部品など最低80万円ほど必要ですが、おかげさまで50万円をOBから寄付いただきました。

生徒たちにとっては今までにないチャレンジでした。国際レースに参加できる安全規定に沿った構造で、正に公道で走れる一台の車を作り上げるわけですから、色々勉強になりました。あとは、鈴鹿の5時間耐久レースで完走できる状態に仕上げることです。安全第一の構造にすること、スペアタイヤ、予備部品などを揃え、今年8月の



工学院大学附属高等学校
工学院大学
KOGAKUIN UNIVERSITY

KoGakuin University



go!



レースに挑みたいと思います。

単にレースに出ることが目標なのではなく、こういう取り組みを経験した人材こそが、未来の脱炭素社会を実現すべき

電気自動車の開発リーダーになるべき人材です。今後のためにもさらに多くの皆様からの支援が必要になります。是非このチャレンジを応援してください。よろしくお願いいたします。

また、今年6月の八王子環境フェスティバルにこのソーラーカーを出展いたしますので是非見に来ていただけると嬉しいです。



寄付のお願い

同窓会の皆様へ。この夢ある“ソーラーカーレースへのチャレンジ”を継続するため、資金面での応援をお願いいたします。現在、工学院大学には「『21世紀工学』育成募金」制度があり、所定の申込手続きにより税制上の優遇措置が得られます。詳細は下記アドレスをご参照ください。

<https://www.kogakuin.ac.jp/alumni/donation/21engineering.html>

なお、寄付に際しては「寄付先指定」が必要です。具体的な寄付方法は高校自動車部顧問・島田までご連絡願います。





仲野 想太郎

仲野 想太郎 (2021年 普通科卒)

「日本生徒会大賞」は全国各地の学校生徒会・生徒会団体・生徒会役員を対象とし、生徒会の活動内容やシステムなどを評価することによって生徒会活動が持つ本来の意義を再確認し活性化させることを目的とした賞です。

(一般社団法人生徒会活動支援協会 <https://seitokai.jp/>より引用)

仲野さんは昨年、生徒会活動における自身の経験などから「日本生徒会大賞 2020」に応募し、見事に「個人の部」優秀賞を受賞されました。

生徒会活動の6年間を振り返る

～「日本生徒会大賞 2020」
受賞までの活動プロセス～

01 近隣保育園との交流活動 〈中学3年 生徒会長在任時〉

地域交流を目的に、甲ノ原保育園の園児を本校の文化祭である「夢工祭」に招待する企画を立案。安全面や衛生面の多くの問題を解決し、初回ながら20名近い参加者が得られた。

もとより目的としていた地域交流も達成し、「普段は体の大きいお兄さんやお姉さんがいて近づけない場所へ安全に案内してもらえる」という評価もいただけて、この年から続く恒例行事となった。

02 生徒会リーダー夏合宿 in 松下政経塾 〈高校2年 生徒会長在任時〉

生徒会長として活動する中で生じた不安や疑問を相談する相手を求めて、



生徒会活動支援協会主催による他校のリーダーたちが集う合宿に参加した。が、そこで感じたものの中で一番大きかったのは無力感だった。本校の生徒会は他校と比較してこれほどまでに後れを取っているのか、とあらゆる場面で痛感した。例を挙げるならば、本校が企画のスムーズな通し方で頭を抱えている時、ある学校は食堂にアイスクリーム自動販売機を導入するか否かということを考えていた。



他校は生徒のための提案に思考を巡らせていたのだ。このことは当時の私に強い刺激となった。そこで、他校生徒会と積極的に交流して複数校の問題解決事例を効率的に入手し、本校に即した手段で必要な情報を活用することにした。

03 他校との積極的な交流 〈高校2年 生徒会長在任時〉

生徒会合宿で協力関係となった他校とは積極的かつ日常的に交流した。写真は文化祭に招待された時の一枚。会長の私だけでなく、次年を担うであろう生徒会役員にも交流を持たせた。



こうした活動が実り、本校で通したい企画について他校での取り組みをアンケート集計したり、コロナウイルス禍での他校の動きを知ったりするときには非常にスピーディーに動けた。

04 「夢工祭」改革 〈高校2年 生徒会長在任時〉

夢工祭では、以前から問題だった「生徒が遊びすぎて来校者の邪魔になる」「生徒同士の内輪ウケが激しくて楽しめない」等の問題を解決したいと考えた。

その原因は間違いなく生徒の行動である。夢工祭には生徒の自由時間があり、そこで楽しむことは何も悪くないが、それを来校者に知ってもらうことは難しい。そこで、生徒が企画に行く機会を統一すればよいと考えた。

対策としては「中夜祭」という時間を1日目と2日目の間に取り、生徒だけが遊べる環境を確保する。これであらゆる企画に行くことができ、2日目の自由時間に「あそこは行ったから、別のところに」という状態を満足感とともに生み出すことができる。

中夜祭ではステージも使用して生徒の満足感を維持し、アンケートでも例年の問題点を指摘されることなく大成功に終わった。



05 「芙蓉峯」デザイン性の向上 〈高校2年 生徒会長在任時〉

私自身のリーダー論から、生徒会役員の得手・不得手も管理することにした。

「芙蓉峯」は生徒会発の広報誌だが、デザインや内容に面白味が欠けていることで生徒に読んでもらえなかった。また、副会長を務めた高校1年では表紙をカラー化したものの、内容に大きな変化を加えられなかった。

そこで、写真が得意な役員と編集作業が得意な役員に仕事を割り振り、編集長を担当させた。その他の役員には同時進行中の別の仕事を割り振ったり、写真・編集の補佐を担当させたりと綿



密な仕事分けを行い、結果的にカラー化や内容の大幅な質の向上に成功して多くの方から好評価をいただいた。

06 新型コロナウイルス対応 〈高校2年 生徒会長在任時〉

2020年2月頃から顕著になったコロナウイルスによる対面不可の影響は生徒会にも及んだ。新学期に向けて予算管理や一年の総括、新生徒会役員の募集、新入生の部活動勧誘の管理などの仕事を立て込む時期で焦りを隠せなかったが、ちょうど以前から準備していたオンライン化の効果が出始めた。

SlackやEdmodo、LINE等のツールを使った情報収集をはじめ、それぞれが自宅で作業を行った成果をまとめたり、オンライン授業でも使ったZoomを利用して会議を短時間で行ったりと、あらゆることがサクサク進み始めたのだ。



学校への立入りが許されて以降は生徒会室からZoomをつないだ役員とのオンライン活動、私は生徒会室でのオフライン活動をする形ができ上がった。また、これらが素早く軌道に乗ったこ



とで、通常は2ヵ月程度を要する予算関係の仕事を約2週間で完結できた。

以上の活動経緯が評価されて獲得した日本生徒会大賞「個人部門・優秀賞」は自分だけの力ではない。保育園の先生方や本校の先生方、本校生徒や他校生徒会の皆さん、そして生徒会執行部の役員、すべての人の協力でこの賞を得られたことに誇りを持っている。

高校1年の時に生徒会副会長に就任して以来、ずっと目標にしてきたこの賞をいただけて本当にうれしい。誰にも負けないアイデアと努力を役員全員で共有し、最後には目標を達成できた。ここまで支えてくれた仲間感謝している。





中学校・高校教諭
高校硬式野球部
監督 雨宮 啓太
(2002年 普通科卒)

附属中学校・高等学校に 屋内練習場が 完成しました!



2002年に附属高等学校を卒業した雨宮啓太と申します。現在、附属中学校高等学校で保健体育科の教員として勤め、高校硬式野球部の監督を務めております。日頃より附属中学校高等学校、そして硬式野球部の応援をありがとうございます。

2020年4月、校友の方や卒業生の方からの寄附にて附属中学高等学校の敷地内に「工学院大学附属中学校・高等学校屋内練習場」が完成しました。全面に人工芝完備、全長は幅約5m×長さ約61mの空間になっています。この施設は野球をはじめとした、多目的な運動、競技での利用が可能な半屋内練習場です。野球の練習については、バッティング練習では2か所、投球練習であれば3か所の練習が可能です。雨天時の練習においても使用することが可能です。2020年7月に落成式を行いました。

2020年度の硬式野球部の活動は新型コロナウイルスの関係で6月下旬からスタートとなりました。7月中旬に行われる夏季大会に向けて、さっそく完成した屋内練習場を使用しての活動をスタートしました。毎年大会前は雨が降る日も多くあり、特に6・7月は雨がが多く、なかなかグラウンドが使えない状況でした。例年であればボールを打つことや投球練習をすることはできず、大会前の調整に苦労していましたが、今年度は屋内練習場という素晴らしい環境があり、天候の心配もすることなく練習に打ち込むことができました。屋内練習場と同時にバッティングマシンや屋内練習場で使用するボールやバットなども寄附をいただき、充実した環境のもと大会前に例年以上の練習に励むことができました。

夏季大会では選手たちのここまでの努力と頑張り、そして天候に心配することなくできた準備のおかげで、夏季大会においては10年ぶりのベスト16という戦績を残せました。ベスト8をかけた試合では第2シード校相手に接戦



まで持ち込みましたが惜敗という結果となりました。イレギュラーなことが多く、準備に苦労しましたが、選手たちが天候に左右されず安心して練習ができたという心の面での準備も大きかったような気がします。この環境に感謝です。

「元気を出して機敏に」「工夫をして積極的に」これが高等学校硬式野球部の全体スローガンです。諸先輩方から受け継いできたこの伝統を大切に、強いチームとしてだけではなく、たくさんの方々に「応援されるチーム」を目指し、選手とともに日々努力を積み重ねていきます。最後になりましたが、「中学校高等学校屋内練習場」を建設していただくうえで、多くの方々にかかわっていただきました。多大なご尽力ありがとうございました。感謝申し上げます。今後も引き続き附属中学校高等学校、そして硬式野球部の応援をよろしくお願い致します。





高校女子バレーボール 同好会が復活！

中学校教諭
高校女子バレーボール
同好会 顧問
中学校教諭 柳田 健吾



しばらく活動を休止していた女子バレーボール部が、同好会として 2020 年度から活動を再開しました。活動再開にあたり、ボールなどから準備するものが多々あったため、今回同窓会より助成をいただき、本格的な活動を再開することができました。まずは、助成していただいた同窓会の皆様に御礼申し上げます。

いただいた助成金に関しては、主にボールとボールかごの購入に使用させていただきました。バレーボールの公式球は大変高価で一球あたり 8,600 円程度かかります。さらに、ボールもミカサ製とモルテン製の 2 種類があり、大会に応じて使用するボールが異なります。この 2 種類のボールは性質が全く異なるため、両方とも練習に使用しなければ上達には至りません。また大会の直前練習でも自分たちのボールを使用するため、ボールの確保が課題でした。同窓会の皆様のご支援のおかげでこうしたボールが購入でき、充実した部活動運営を行うことができております。

さて、活動に関してですが、各校でバレーボール部の廃部が年々増えている状況の中、新たにバレーボールの部活動が作られることは大変珍しく貴重であり、バレーボール界の発展にも繋がるということで、東京都高体連バレーボール協会の役員の先生方からも様々なご尽力をいただき、積極的に多くの大会にお声をかけていただきました。しかしながら、今年度は新型コロナウイルス感染症の問題により、例年行われていたほぼすべての大会が中止となってしまうしました。また、再開したばかりの部活動ということもあり、未経験者率も高く、部員そのものも 6 名とまだまだ大変少ない状況だったため、唯一出場することができた 11 月の新人戦では、試合経験の少なさが影響し、残念ながら大きな結果を残すことができませんでした。

しかし、この大会で部員たちは多くのことを学び、一回の大会で大きく成長したように思います。新型コロナウイルス感染症の猛威はまだまだ留まるところを知らず、大会



運営そのものが難しい状況ではありますが、次年度以降は少しでも多くの大会に出場し、結果を残せるようにしていきたいと考えています。また、未経験者率が高いことも事実ですが、高体連の役員を務める多くの先生方から羨ましいと言っていただけのほど有望な経験者が入部してきてくれたこともまた事実です。そして、何より多摩地区はバレーボールが盛んな地域としても知られ、毎年都内各地の先生方がスカウトをしに各中学校を訪問するような地域でもあります。そうした地域であるため、競技人口は大変多く、周辺の高校はほぼ強豪校という状況です。強豪校ではない学校で、文武両道を貫きながらバレーボールをしたいという生徒も数多くいるはずで、次年度以降はそうした生徒に積極的に声をかけて部員の確保に努めつつ、部全員のスキル向上を目指してまいります。そして、いつかは本校を代表する部活動の一つとして名を連ねられるようにしていきたいと考えております。再開したばかりで、また新たな顧問が率いている部ということで、まだまだ若輩な部活動ではありますが、今後ともご支援ご声援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。

経験者が入部してきてくれたこともまた事実です。そして、何より多摩地区はバレーボールが盛んな地域としても知られ、毎年都内各地の先生方がスカウトをしに各中学校を訪問するような地域でもあります。そうした地域であるため、競技人口は大変多く、周辺の高校はほぼ強豪校という状況です。強豪校ではない学校で、文武両道を貫きながらバレーボールをしたいという生徒も数多くいるはずで、次年度以降はそうした生徒に積極的に声をかけて部員の確保に努めつつ、部全員のスキル向上を目指してまいります。そして、いつかは本校を代表する部活動の一つとして名を連ねられるようにしていきたいと考えております。再開したばかりで、また新たな顧問が率いている部ということで、まだまだ若輩な部活動ではありますが、今後ともご支援ご声援のほど、どうぞよろしくお願いいたします。



がんばる 生徒特集

「コロナ禍での ICT活用」

高校3年 ハイブリッド文理先進コース

高野 日向子



2020年、この年は東京オリンピックが開催され、工学院生もオリンピックを観戦できる予定でした。しかし、年明けから新型コロナウイルスの世界的流行が始まり、3月からの臨時休校、4月からはZoomを活用したオンライン授業が開始されました。

中学校ではiPad、高校ではPCを活用した授業を普段から行っているため、授業自体はスムーズに開始することが出来ました。しかし、学年が上がりクラス替えや担任の先生が変わっていたにも関わらず、一度も直接顔を合わせることなくオンライン授業を行うことによって、コミュニケーション不足は否めませんでした。

また、高校2年生は、12月にグローバルプロジェクトという世界各国でSDGsに沿った課題解決を目指すプロジェクトが予定されていました。私は、LGBTやHIV陽性者への差別を課題としたタイ班のリーダーを務め、他の班のリーダーとオンラインで会議を重ね、実際に現地に行く前の準備として何をするべきかを話し合いました。リーダー会議で決定された内容は、実際に授業の時間を使い、他の生徒へ伝えインターネットを活用しながら情報を集めてもらい、生徒間で共有しあい、知識を深めました。しかし、オンラインという環境上みんなの表情をくみ取るのが難しく、しっかり自分の指示が伝わっているのか不安でした。

6月からは、登校が再開され夢工祭に向けた出し物の準備が始まり、9月末に行われた夢工祭本番では、それぞれの班でポスターや動画の作成、現地の物の販売・展示などを行いました。入場制限や人と人との距離を保つよう声掛けをしながらも、充実した夢工祭となりました。その後は、規模を縮小しながらも体育祭を行ったり、定期試験があったりと、あっという間に時間は過ぎていき、12月のグローバルプロジェクト当日が迫っている中、新型コロナウイルスの感染状況は回復せず実際に現地に行くことはできなくなってしまいました。このことを告げられた当初は、今までの事前学習の積み重ねが無駄になってしまうのではないかと不安でした。ですが、先生や現地との連絡を取ってくれるコーディネータさんの協力もあって、タイ班ではHIV陽性者の方を対象とした活動をしている団体の方やLGBTの当事者の方に学校へ来て頂き、タイの現地の方のお話はZoomを介して聞き、こちらからもたくさんの質問をすることが出来ました。

タイに行くことは叶いませんでしたが、ICTを活用し現地の現状を学ぶ有意義な時間となりました。コロナ禍が終わった時には、実際に現地に行き足に運びたいです。

※ ICT…パソコンやタブレット端末、インターネットなどの情報通信技術

援助活動報告、その他報告

新会員の皆さんへ

**ご卒業おめでとうございます！
そして、同窓会へようこそ！**

卒業生が集い、情報交換するための各種イベントを運営しています。



クラブ活動援助

今年度は2つのクラブ活動に援助を行いました。詳細は別ページの記事をご参照願います。

- 硬式野球部の屋内練習場 (8ページ)
- 女子バレーボール同好会 (9ページ)



卒業記念品、 同窓会クラブ賞の贈呈

例年、卒業式には卒業生に対して卒業記念品を贈呈しております。今年度は本会名入りの高級ボールペンを贈りました。また、各クラブ活動の代表者には同窓会クラブ賞(図書カード)を贈りました。



「夢広場」ダイジェスト版の配付

新しく同窓会員となる卒業生へお祝いの言葉と本会の活動内容を伝えるため、同窓会報「夢広場」ダイジェスト版(A4判両面カラー)を配付いたしました。



コロナウイルス禍 による 行事・イベント の中止

2020年2月頃から感染拡大が始まったコロナウイルスの影響により、恒例となっていた本会および校友会の行事・イベントが相次いで中止となりました。ホームカミング・パーティー(5月)、社員総会・同窓会報告会・意見交換会(5月)、おもいでCafé(9月)、新春の集い(今年1月)が開催できなかったことは誠に残念でなりません。

ウイルス禍はいまだ収束の見込みがつかないため、4月以降の行事・イベント等につきましては本会ホームページにてお知らせいたします。 <http://ga-kogakuin.jp/>



本誌「夢広場」OB・OG 寄稿文、会報編集委員

**募集
しています！**

社会で活躍するOB・OGの皆さん。同期生との交流やご自身の仕事、趣味などを寄稿しませんか？こんなスゴイOB・OGがいる！という情報もぜひ、お寄せください。

私たちといっしょにこの会報を作りませんか？誌面づくりのアイデアを出したり原稿や写真をあつめたり。月に1～2回位の集まりです。

※寄稿文が多数寄せられた際は次号に掲載する場合がありますのでご了承願います

★高校同窓会 会報編集部★
(校友会事務局内)

電話 03-3342-2064 FAX 03-3342-2035

※編集会議の時期はおおよそ10月から翌年3月上旬、主に八王子近郊で行います

工学院大学附属高等学校同窓会の最新情報は

ホームページ・公式Facebook・公式LINE @で今すぐチェック！

公式ホームページ

公式Facebook

公式LINE @



訃報



飯塚 辰典 氏

本年2月24日、本会副会長・飯塚辰典氏(1975年普通科卒)が急逝されました。長年にわたり本会および校友会活動に力を尽くし、今後のご活躍を期待されていた折に大変残念でなりません。謹んでご冥福をお祈りいたします。



同期の仲間と



若林副会長と

夢工報 お知らせ掲示板

2020年度維持振興基金

募金者名簿

※この度はご協力いただき、誠にありがとうございました。

青木 喜代司	岡安 彰	篠 欣克	當間 裕和	森田 謙司
有岡 光男	小口 俊明	清水 禎一	豊泉 博	山口 利明
飯塚 辰典	笠原 又一	新海 昌美	鳥塚 由彦	吉田 定彦
五十嵐 功	梶山 昇	鈴木 肇	中里 利男	若栗 彰一
五十嵐 隆英	岸 和浩	関口 一平	橋本 信一	若林 勝司
石渡 秀夫	熊川 輝之	高橋 康治	星野 明	渡辺 陸
内田 栄信	倉内 重耐	滝島 正之	堀田 猛	三共工学院会 (第一三共)
内野 正之	黒米 富雄	塚本 和秀	宮内 保幸	
太澤 有正	國分 悠哉	辻野 周邦	三宅 捷夫	
太田 正利	小林 保男	鄭 雄飛	本野 裕二郎	(敬称略、順不同)

○皆様からいただいた寄付金の積立て金額は会計報告の決算書(特別勘定)に記載しておりますので確認願います

○ゆうちょ銀行から届く振替払込票の印字が読み取れない場合があります。万が一、お名前が間違っておりまして際は次号にて訂正いたしますのでご一報願います

○会計監査の関係上、年度内の募金は3月15日で区切らせていただきました。3月16日以降は次年度の募金扱いとなりますことをご了承願います

会計報告

一般社団法人工学院大学校友会 附属高等学校同窓会

2020年度 決算書

2020年4月1日～2021年3月31日

収入の部

科目	予算案	決算額	備考
会費収入	2,240,000	2,240,000	2020年度3年次該当者(224名)
広告収入	0	0	なし
懇親会参加費	0	0	なし
雑収入		19	利息
企画収入	40,000	0	
前期繰越金	1,649,809	1,649,809	口座¥1,637,696、現金¥12,113
合計	3,929,809	3,889,828	

支出の部

科目	予算案	決算額	備考
事業費	2,810,000	1,962,900	
生徒奨励費	800,000	751,975	同窓会クラブ賞、卒業記念品
活動助成費	700,000	699,717	クラブ活動に対する助成 (デジタルクリエイター育成委員会への助成も含む)
OB会援助費	50,000	0	
会報出版費	600,000	442,430	44号本冊、45号ダイジェスト版
会報郵送費	100,000	68,778	会報、総会案内送料、作業費、等 校友会へ支払い
特別事業費①	20,000	0	
特別事業費②	500,000	0	
特別事業費③	100,000	0	
寄付	30,000	0	
管理費	420,000	196,283	
総会費	20,000	0	
会議費	100,000	17,800	役員会、会報編集会議等
通信費	200,000	111,073	NTTファイナンス、さくらインターネット、案内状発送
交通費	30,000	0	
慶弔費	50,000	67,410	校長への退職記念品、御香典、供花
消耗品費	20,000	0	
雑費	50,000	0	
支出合計	3,280,000	2,159,183	事業費+管理費+雑費
次期繰越金	649,809	1,730,645	口座¥1,720,864、現金¥9,781 3月30日
合計	3,929,809	3,889,828	

監査の結果、相違ないことを認めます 2021年3月30日

岡安 彰

佐藤 勝

特別勘定

科目	収入	支出	
前年繰越し金	8,569,759		
積立金			
寄付金	279,584		2020年度維持振興基金¥279,584
利息	71		利息
預金の移動			
助成金		300,000	室内練習場落成記念
合計	8,849,414	300,000	
次期繰越し金		8,549,414	残高¥8,549,414

2021年度 予算書

2021年4月1日～2022年3月31日

収入の部

科目	予算案	備考
会費収入	2,350,000	2021年度3年次該当者(235名)
懇親会参加費	0	なし
雑収入		利息
企画収入	40,000	おもいでCafé
前期繰越金	1,730,645	口座¥1,720,864、現金¥9,781
合計	4,120,645	

支出の部

科目	予算案	備考
事業費	3,440,000	
生徒奨励費	900,000	同窓会クラブ賞、卒業記念品
活動助成費	1,000,000	クラブ活動などに対する助成
OB・OG会援助費	100,000	クラス会、同期会開催への援助
会報出版費	600,000	次期発注のため(本誌、ダイジェスト版)
会報郵送費	100,000	会報、総会案内送料、作業費、等 校友会へ支払い
特別事業費①	100,000	工学院大学「新型コロナウイルス対策 学生・生徒支援募金」へ寄付
特別事業費②	400,000	懇親会、思い出カフェ運営費
特別事業費③	200,000	全国大会参加費補助
寄付	40,000	おもいでCafé売上金を生徒会へ寄付、 新春の集いへ寄付
管理費	370,000	
総会費	20,000	支部総会参加等
会議費	100,000	役員会、会報編集会議等
通信費	150,000	NTTファイナンス、さくらインターネット、案内状発送
交通費	30,000	支部総会参加等交通費
慶弔費	50,000	会員結婚祝い、祝電
消耗品費	20,000	同窓会室備品各種
雑費	50,000	
支出合計	3,860,000	事業費+管理費+雑費
次期繰越金	260,645	
合計	4,120,645	

特別勘定予算

科目	収入	支出	
前年繰越し金	8,549,414		
積立金	0		
寄付金	350,000		2021年度維持振興基金
利息	50		
預金の移動	0		
助成金		0	
合計	8,899,464	0	

「クラス委員」「クラブ委員」選任のお知らせ

本会ではホームカミング・パーティーの企画や同窓会報の編集などに協力していただくメンバーとして、毎年の卒業生から各クラスの代表として「クラス委員」、希望する部活動の代表として「クラブ委員」を選任しています。2021年3月卒業生の中からは右記のメンバーが加わりました。どうぞ、よろしくお願いいたします。

クラス委員

【1組】	武井 星
【2組】	松枝 美羽 山下 悠大
【3組】	青木 萌和 覚張 豪
【4組】	和田 泰陽
【5組】	三上 虎太郎
【6組】	大石 琴美 関口 茂恵
【7組】	宮澤 凜 李 駿 聡

クラブ委員

【自動車部】	加藤 翔伍
【高校バドミントン部】	浅見 幸佑
【女子バスケットボール部】	中込 佳凜
【軽音楽部】	三武 舞
【水泳部】	岩田 悠吾
【軽音楽部】	伊藤 愛希
【卓球部】	富元 太智
【硬式野球部】	岡田 颯太
【サイエンス部（旧天文部）】	郷野 翔太郎
【ダンス部】	森川 真莉菜
【硬式テニス部】	山下 祥太

※敬称略、順不同

同窓会役員名簿

任期（高校同窓会役員）：2021年4月1日～2023年3月31日
任期（代議員）：2019年2月1日～2023年1月31日（4年間）

2021年4月より下記の通り、役員を選出いたしました。今後とも皆様方より温かいご支援をよろしくお願い申し上げます。

役職	卒業年	氏名	校友会代議員	校友会役職
会長	1979	岸 和 浩		
副会長	1979	島田 浩行	○	
副会長	2007	田中 元樹	○	
会計	1995	白滝 聡	○	
会計	2002	雨宮 啓太	○	
幹事	1967	豊田 純一	○	
幹事	1975	内野 正之	○	
幹事	1977	小口 俊明		
幹事	1979	佐保田 一幸		
幹事	1979	池田 尚		
幹事	1981	小川 隆	○	理事
幹事	1987	内野 真治		
幹事	2005	光畑 和則		
幹事	2007	有賀 雅雪		

役職	卒業年	氏名	校友会代議員	校友会役職
幹事	2008	広田 慶孝	○	
幹事	2008	小川 友里加	○	
幹事	2009	荒井 翔平		
幹事	2009	山本 進	○	
幹事	2014	小川 奨太		
会計監査	1973	佐藤 勝		
会計監査	1975	岡安 彰	○	
顧問	1957	石渡 秀夫		
顧問	1960	五十嵐 功		選挙管理委員
顧問	1961	三宅 捷夫		
参与	1963	鄭 雄飛	○	
参与	1968	若林 勝司	○	
参与	1973	太田 正利	○	

氏名敬称略・順不同 校友会代議員は校友会員全体から選挙による選任
校友会理事は代議員による互選

事業報告・事業計画

同窓会活動における2020年度事業報告、2021年度事業計画は以下の通りです。

【2020年度事業報告】

1. 生徒奨励
卒業記念品贈呈／優秀生徒表彰（同窓会クラブ賞）
2. 学園への援助
3. 生徒の諸活動への助成
クラブ活動／生徒会活動／その他諸活動
4. OB・OG会への支援 ※案件なし
5. 広告ツールの拡充
会報45号の発刊／SNSによる情報発信／ホームページリニューアル
6. クラス委員制度の拡充
7. 懇親会（八王子）企画の拡充 ※ウィルス禍により中止
8. おもいでCafé企画の拡充 ※ウィルス禍により不参加
9. 同窓会意見交換会の開催 ※ウィルス禍により中止
10. ホームカミングデーへの協力、参加 ※ウィルス禍により中止
11. 校友会活動への協力、参加

【2021年度事業計画】

1. 生徒奨励
卒業記念品贈呈／優秀生徒表彰（同窓会クラブ賞）
2. 学園への援助
3. 生徒の諸活動への助成
クラブ活動／生徒会活動／その他諸活動
4. OB・OG会への支援
5. 広告ツールの拡充
会報46号の発刊／SNSによる情報発信／ホームページリニューアル
6. クラス委員制度の拡充
7. 懇親会（八王子）企画の拡充
8. おもいでCafé企画の拡充
9. 同窓会意見交換会の開催
10. ホームカミングデーへの協力、参加
11. 校友会活動への協力、参加

Index

巻頭 TOPICS	“本校中学生”がOBの会社を訪問!
P. 1 ごあいさつ	同窓会会長、中学校・高等学校校長
P. 2 学校だより	～高等学校・中学校の近況～
P. 4 OB・OG 寄稿	ソーラーカーレースへのチャレンジ
P. 6 OB・OG 寄稿	生徒会活動の6年間を振り返る
P. 8 援助事例	附属中学校・高等学校に屋内練習場が完成しました!
P. 9 援助事例	高校女子バレーボール同好会が復活!
P.10 がんばる生徒特集	コロナ禍でのICT活用
P.11 援助活動報告、 その他報告	クラブ活動援助／卒業記念品、同窓会クラブ賞の贈呈 「夢広場」ダイジェスト版の配付 コロナウイルス禍による行事・イベントの中止 計報／OB・OG寄稿文、会報編集委員の募集
P.12 夢工報 (おしらせ掲示板)	維持振興基金募金者名簿／2020年度決算書、2021年度予算書 「クラス委員」「クラブ委員」選任のお知らせ／同窓会役員名簿 2020年度活動報告・2021年度活動計画

Editor



編集長

荒井 翔平
2009年 普通科卒



岸 和浩
1979年 普通科卒



白滝 聡
1995年 普通科卒



田中 元樹
2007年 普通科卒



新海 龍一
2014年 普通科卒



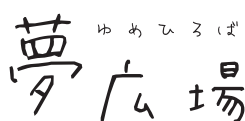
桑野 拓也
2016年 普通科卒



星 彩水
2017年 普通科卒



鈴木 初香
2018年 普通科卒



会報「夢広場」第45号 発行日：2021年4月1日 発行人：岸 和浩
事務局：〒163-8677 東京都新宿区西新宿1-24-2 工学院大学校友会事務局
電話：03-3342-2064 FAX：03-3342-2035 メール：info@ga-kogakuin.jp
一般社団法人工学院大学校友会 附属高等学校同窓会